

- 問1 日本の各地方の統計データにおいて、人口が約1431万人、農業生産額が約1.9兆円、工業生産額が約25.7兆円を示している地方区分はどれか。西日本の他地域と比較して農業生産額が高い水準にあることも特徴である。 (2023年 青森県公立入試 類似)
1. 近畿地方 2. 九州地方 3. 中国・四国地方 4. 中部地方
- 問2 1978年から2018年にかけての沖縄県の観光に関する統計資料を分析すると、観光客数と観光収入の双方が著しい成長を見せていることがわかります。この約40年間の変化について、数値の推移から読み取れる事実として最も適切なものはどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
1. 1978年と比較して、観光客数の増加率よりも観光収入の増加率が極端に低くなっており、観光産業の経済への影響力は年々低下している。
2. 観光客数は大幅に増加したものの、観光客1人あたりの消費額が急減したため、観光収入の総額は1978年当時の水準を維持するにとどまった。
3. 観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。
4. 観光客数はこの期間に8倍以上の増加率を記録しており、それまでの主要産業であった農業の生産額を統計開始直後に上回った。
- 問3 2020年のブリ類の生産統計において、海面養殖業の収穫量が全国合計（約13万7千トン）の過半数を占めている九州地方の状況として、適切な説明を選びなさい。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
1. 九州地方は天然のブリ類を対象とした海面漁獲量が全国で最も多く、長崎県や島根県が全国の収穫量の過半数を占めている。
2. 鹿児島県が約4万3千トンと全国で最も多い収穫量を記録しており、大分県や宮崎県と合わせた九州3県で全国の過半数を占めている。
3. 海面養殖業の収穫量上位5県はすべて太平洋側に位置しており、九州地方では宮崎県のみがその中に含まれている。
4. 海面養殖業よりも海面漁獲量の方が全国の生産量は多く、九州地方では養殖よりも北海道などから運ばれる天然ものの流通が中心である。
- 問4 ある都市の統計において、第3次産業の就業者割合が約84.5%と非常に高く、65歳以上の高齢者割合も約31.0%に達している場合、その都市の産業特性として考えられる内容を次の中から選びなさい。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
1. 平野部において高度に機械化された稲作が行われており、周辺自治体に比べて第1次産業の就業者数が突出している。
2. 温泉などの観光資源を基盤とした宿泊業・サービス業が産業の主軸となっており、観光に従事する人々が産業の大部分を占めている。
3. 大都市圏のベッドタウンとして機能しており、都心部へ通勤する会社員が多いため、夜間人口が昼間人口を大きく上回っている。
4. 高速道路のインターチェンジ付近に半導体工場などの工業団地が形成されており、製造業に従事する第2次産業の割合が高い。
- 問5 九州地方の筑紫平野に関する説明として、温暖な気候や土地の高度な利用方法の観点から、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
1. 連作障害を防ぐために、数年ごとに栽培する作物を入れ替える輪作を大規模に導入している。
2. ビニールハウスを利用して夏野菜の成長を早める促成栽培を行い、冬の出荷額を高めている。
3. 稲作の収穫が終わった後の水田を裏作として活用し、小麦などを栽培する二毛作が盛んである。
4. 1年のうちに同じ水田で2回米を収穫する二期作を行い、食料自給率の向上に貢献している。
- 問6 九州地方南部のシラス台地において、古くから水田稲作ではなく、サツマイモなどの畑作や畜産業が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質から説明したものとして適切なものはどれですか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 標高が高く気温が低いため、熱帯性の作物である稲の栽培が困難だったため。
2. 地盤が非常に軟弱であり、重い農機具を利用した大規模な耕作に適さなかったため。
3. 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。
4. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を阻害する性質を持っていたため。
- 問7 長崎県は複雑な海岸線を持つことから、入り江などを網で仕切って魚を育てる「海面養殖」が盛んです。2008年から2013年にかけて、長崎県ではぶり、まぐろ、ふぐなどの様々な魚が育てられています。これらと並んで生産額の多くを占めている代表的な魚種を選択肢から選んでください。 (2017年 京都府公立入試 類似)
1. かつお 2. さけ 3. まだい 4. ほたてがい
- 問8 九州地方南部に位置する鹿児島県では、第1次産業の就業人口割合が約9.5%と全国平均に比べて高く、農業が盛んです。この県の土地利用の特徴として、耕地面積に占める畑の割合が約68%と非常に高いことが挙げられますが、このように畑作や畜産が中心となった主な理由として正しいものはどれですか。 (2018年 東京都公立入試 類似)
1. 平野部がほとんど存在せず、急峻な傾斜地を利用した果樹園の経営が中心となったから。
2. 冬の積雪量が多く、1年の半分以上を農作業に充てることができない気候特性があるから。
3. 夏の降水量が極端に少なく、大規模なため池を作ることが技術的に困難であったから。
4. シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に不向きであったから。
- 問9 中国の経済成長と沖縄観光の関連について述べた次の文のうち、2010年当時の統計的な事実に基づいた正しい記述はどれですか。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
1. 中国の生活水準が低下したため、沖縄を訪れる中国人観光客の数は1990年代から2010年にかけて減少に転じた。
2. 中国がGDPで世界第1位を維持し続けた結果、1990年代から毎年10万人以上の中国人観光客が沖縄を訪れていた。
3. 中国のGDPが日本を追い抜き世界第2位となった時期に、沖縄を訪れる中国人観光客は1990年代末の約20倍以上に増加した。
4. 中国のGDPが世界第3位に低下した時期に、沖縄を訪れる外国人観光客の中で中国人の割合が最も低くなった。
- 問10 日本の農業産出額の内訳において、ある県では「畜産」の割合が全体の約半分を占めており、米や果実中心の県に比べて圧倒的に高くなっています。このような特色を持つ、南九州に位置する県はどこですか。 (2019年 福島県公立入試 類似)
1. 青森県 2. 新潟県 3. 愛媛県 4. 鹿児島県
- 問11 中国・四国地方と九州地方の産業統計を比較したとき、それぞれの地方の特色について正しく説明しているものはどれですか。なお、統計において中国・四国地方の工業出荷額は約36.7兆円、九州地方は約25.7兆円となっています。 (2023年 青森県公立入試 類似)
1. 中国・四国地方と九州地方を比較すると、人口、農業生産額、工業出荷額のすべての項目において九州地方が中国・四国地方を上回っている。
2. 九州地方は中国・四国地方に比べて人口が多く、農業生産額も大きいですが、工業出荷額は中国・四国地方の方が大きい。
3. 九州地方は中国・四国地方に比べて農業生産額は小さいが、工業出荷額と人口において中国・四国地方を大きく上回っている。
4. 中国・四国地方は九州地方に比べて人口が多く、農業生産額も工業出荷額も九州地方を上回っている。
- 問12 鹿児島県において、県庁所在地の周辺に広がり、大規模な住宅団地などが造成されている、火山噴出物が堆積して形成された台地を何と呼びますか。 (2020年 東京都公立入試 類似)
1. 武蔵野台地 2. 牧之原台地 3. カルスト台地 4. シラス台地

答え合わせ・解説

問1	答え 2 九州地方	人口規模に加え、農業生産額が約1.9兆円と西日本の中で高い水準を示している点が九州地方を特定する鍵となる。九州地方は筑紫平野や宮崎平野などを中心に農業が盛んであり、近畿地方や中国・四国地方と比較しても農業産出額の規模が大きい傾向にある。
問2	答え 3 観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。	1978年から2018年にかけての統計を見ると、沖縄を訪れる観光客数は約7倍強（140万人から約1000万人）に増加しており、これに伴って観光収入も右肩上がりの推移を見せています。選択肢にある「8倍以上の増加」は、 $1000 \div 140 \approx 7.14$ 倍であることから統計上の事実とは言えません。この観光産業の成長により、沖縄県はサービス業を中心とした第3次産業が経済の柱となっています。
問3	答え 2 鹿児島県が約4万3千トンと全国で最も多い収穫量を記録しており、大分県や宮崎県と合わせた九州3県で全国の過半数を占めている。	2020年の統計によると、ブリ類の海面養殖業では鹿児島県が突出した収穫量を誇り、大分県、宮崎県を含めた九州3県の合計が全国の過半数に達しています。これに対し、天然のブリを獲る海面漁獲量では北海道が1位となっており、養殖と漁獲では主要な産地が異なるのが特徴です。また、ブリ類全体の生産量で見ると、漁獲（約10万トン）よりも養殖（約13万7千トン）の方が多くなっています。
問4	答え 2 温泉などの観光資源を基盤とした宿泊業・サービス業が産業の主軸となっており、観光に従事する人々が産業の大部分を占めている。	第3次産業の割合が8割を超えるような極めて高い数値は、観光業に特化した都市で見られる典型的な特徴です。特に温泉地のような歴史ある観光地では、産業構造がサービス業に偏る一方で、現役世代の減少により高齢化が進んでいるケースが多く見られます。製造業が中心の場合は第2次産業が、農業中心の場合は第1次産業が一定の割合を占めるため、これほど第3次産業に偏ることはありません。
問5	答え 3 稲作の収穫が終わった後の水田を裏作として活用し、小麦などを栽培する二毛作が盛んである。	筑紫平野は九州最大級の平野であり、温暖な気候と豊かな水資源を背景に農業が非常に盛んです。特に、米の収穫後の水田で小麦や大麦を育てる「二毛作」は、土地を1年を通じて有効活用する代表的な手法です。二期作は主に米を2回作ることを指し、促成栽培は宮崎平野などのビニールハウス農業でよく見られる形態であるため、筑紫平野の土地利用の説明としては、裏作での小麦栽培（二毛作）を挙げるのが適切です。
問6	答え 3 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。	シラス台地を構成する火砕流堆積物は粒が粗く、隙間が多いため、雨が降ってもすぐに地下へ浸透してしまう「水はけが良すぎる」という性質があります。そのため、常に水を張る必要がある水田には不向きであり、乾燥に強いサツマイモや、広大な土地を利用した豚・鶏・牛などの畜産業が発展しました。
問7	答え 3 まだい	長崎県は、リアス海岸などの入り組んだ地形や多くの島々という地理的条件を活かし、海面養殖が非常に盛んな地域です。特に「まだい」の養殖生産量は全国でもトップクラスであり、ぶり、まぐろ、ふぐ（トラフグ）といった市場価値の高い高級魚を組み合わせることで、高い生産額を維持しています。
問8	答え 4 シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に不向きであったから。	鹿児島県を含む九州南部には、火山の噴出物が積み重なってできたシラス台地が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、かつては大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、水が少なくても育つサツマイモなどの畑作や、広大な土地を利用した肉用牛、豚、ブロイラー（鶏）などの畜産が発展しました。
問9	答え 3 中国のGDPが日本を追い抜き世界第2位となった時期に、沖縄を訪れる中国人観光客は1990年代末の約20倍以上に増加した。	2010年は、中国のGDP（国内総生産）が日本を上回り、世界第2位の経済大国となった節目の年です。この時期、沖縄県を訪れた中国人観光客数は、1998年の474人から2010年には10,888人へと急増しており、約12年間で20倍を超える規模に拡大しました。これは、中国の経済成長が近隣地域への観光需要に直結していることを示しています。
問10	答え 4 鹿児島県	鹿児島県は、宮崎県とともに南九州の畜産地帯を形成しています。火山灰が堆積してできたシラス台地は水はけが良すぎたため、伝統的に稲作よりも畑作や畜産が行われてきました。現在では、肉用牛（黒毛和牛）、豚（黒豚）、鶏（ブロイラー）の飼育頭数が全国トップクラスであり、農業産出額の約半分を畜産が占めるという際立った特色を持っています。
問11	答え 2 九州地方は中国・四国地方に比べて人口が多く、農業生産額も大きいですが、工業出荷額は中国・四国地方の方が大きい。	九州地方は人口が約1431万人、農業生産額が約1.9兆円であり、人口約1108万人、農業生産額約0.9兆円の中国・四国地方を上回っています。一方で、工業出荷額に関しては、瀬戸内工業地域などの大規模な重化学工業が発達している中国・四国地方が約36.7兆円となっており、九州地方の約25.7兆円を上回る規模を持っています。地方ごとの産業構造の違いを、人口規模や生産額の具体的な数値から判断することが重要です。
問12	答え 4 シラス台地	南九州に広く分布する、火砕流堆積物が重なってできた台地をシラス台地と呼びます。水持ちが悪いため稲作には不向きですが、鹿児島市周辺では宅地造成が進み、多くの市民が暮らす住宅地となっています。なお、カルスト台地は山口県の秋吉台などが有名で、牧之原台地は静岡県のお茶の産地として知られています。